

はじめに

平成22年版宮城県環境白書をここに公表します。

宮城県では、みやぎが元気になり、県民の皆さんが豊かさを実感できる「富県宮城」の実現を目指して、「宮城の将来ビジョン」に掲げる県政運営の理念「富県共創！活力とやすらぎの邦（くに）づくり」のもと、さまざまな施策を進めています。

その中で、政策推進の基本的方向の1つの柱である、「人と自然が調和した美しく安全な県土づくり」の実現に向けて、「経済・社会の持続的発展と環境保全の両立」と「豊かな自然環境、生活環境の保全」に取り組んできました。

今日、環境問題は地球温暖化や生物多様性の確保など、地球全体で対応すべき喫緊の課題となっています。

わが国では、温室効果ガスの排出量を、2020年までに1990年比で25%の削減を目指すことを表明しています。地球温暖化対策は、県民、事業者、行政といった全ての主体が、自分自身の問題として認識し、自主的に、かつ連携しながら行動していかなければ解決できない課題です。さらに、環境と経済の両立が真の豊かさに繋がることから、クリーンエネルギーの利活用促進や、関連産業集積に向けた様々な取組を進めていく必要があります。

また、今年10月には「生物多様性条約第10回締約国会議（C O P 10）」が名古屋市において開催され、多種多様な生物の種の損失を食い止め、保全を進めることが、今後ますます求められています。宮城県は、国立公園に指定されている金華山島や栗駒山、ラムサール条約湿地である伊豆沼など、豊かな自然を有しています。これらの豊かな自然のめぐみを楽しんでいる私たちは、自然環境を損なうことなく将来の世代に引き継いでいく責任があります。

このような考え方に立ち、差し迫った環境問題に対応するとともに、宮城の豊かな自然を守るため、平成23年4月から5年間、「みやぎ環境税」を導入します。宮城県の環境の保全と向上のため、「環境立県みやぎ」を目指し、県民の皆様の参加により、様々な施策を一体的・複合的に展開してまいります。

この環境白書は、平成21年度における宮城県の環境の状況及び県が実施した環境施策について取りまとめたものです。この冊子が宮城の環境に対する関心を高め、理解を深める一助となりますことを願ってやみません。そして、環境を守る活動の輪が広がっていくことを心より期待しています。

平成22年12月

宮城県知事 村 井 嘉 浩